



「The Goring」の正面ファサード。2011年4月、キャサリン妃はウィリアム英王子とのロイヤルウエディングの前夜、一般人としての最後の夜を「ザ・ゴーリング」で家族とともに、ホテル最上階のスイートルーム「The Royal Suite」に滞在して準備を整えていた



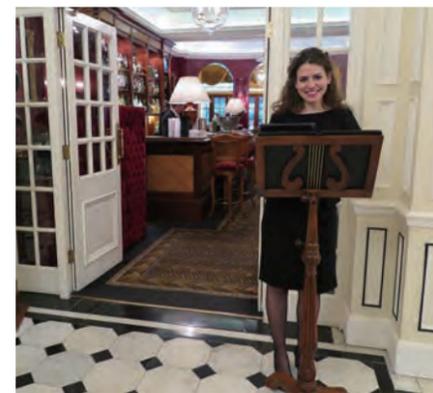
「The Goring Bar & Lounge」のバーカウンター。ゴーリングのハイティーマーの時間は圧巻だ。まさにロンドンの一握りのハイソサエティー歓談の場であり、良き時代の大英帝国の残照が垣間見える光景でもある



「The Goring」の控えめだが威厳のある正面エントランス。ゴーリングは1910年の創業以来、一族で同じ経営ポリシーを受け継いで来ている



正面玄関に立つ正装のドアマン。門柱に「Pride of Britain」の文字が見える



「The Goring Bar & Lounge」のエントランスに立つ受付嬢



「Top London Afternoon Tea Award」にも輝いたアフタヌーンティーを享受できる

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエグゼクティブが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままに撮ってきた写真を掲載する。



筆者 小原 康裕  
ホテルジャーナリスト  
慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年Munich Re入社。85年築地原健樹代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役CEO。JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。  
[www.jhrca.com/worldhotel](http://www.jhrca.com/worldhotel)  
現在、筆者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。私のファーストアルバム「World's Leading Hotels」はお陰様で好評を頂いておりますが、写真集第2弾「World's Prestige Hotels世界の名門ホテル」を去年6月に発行いたしました。独自に取材した世界各地の最高峰ホテルを華麗な写真と共に解説しております。ファーストアルバムに引き続きご愛読して頂ければ幸いです。



ホテルレセプションデスク。手前に創業者であるゴーリング氏の銅像が、「O.R.Goring 1869-1946」と記された台座に立っている



厳選された紅茶葉を用意し、伝統の銀器でティーを楽しむ



晴れた日にはガーデン側に用意されたテラス席もお勧めである

### The Goring

2011年4月、キャサリン妃はウィリアム英王子とのロイヤルウエディングの前夜、一般人としての最後の夜をあるホテルで過ごしていた。このホテルこそが「The Goring」である。1週間以上前からキャサリン妃は家族とともに、ホテル最上階のスイートルーム「The Royal Suite」に滞在して準備を整えていた。ウエストミンスター



伝統を感じさせるグランドフロアの回廊。日本では一部のホテル関係者しか知られていないが、ゴーリング家により100年以上にわたって経営されているロンドン屈指のラグジュアリーホテルである



ホテルの中央を貫くエレガントな館内廊下。各階フロアごとに壁紙の色彩が変わる



ゴーリングを紹介した物語本「A Very Special Place」に出てくる挿絵をすべて壁に掲げている



メインダイニング「The Dining Room」の気品溢れる佇まい



1番に予約で埋まる窓側席。ミシュランの星を獲得した実力派でもある



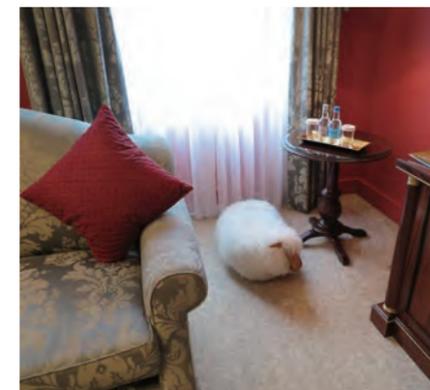
「Suite Room」のリビングルーム。ホテル客室は部屋ごとにデザインが異なり、このスイートは暖炉が置かれた重厚なブリティッシュスタイルの部屋だ



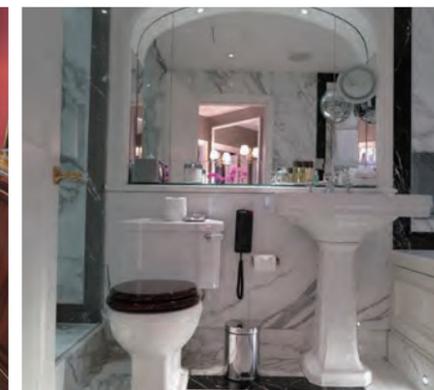
「Suite Room」の明るい玄関ホワイエ



重厚な木目のベッドヘッドを施した寝室。ベッド上には可愛い羊のマスコットが置かれている



すべての部屋のベッド上に羊のマスコットが置かれているが、特別にこの部屋には大きな羊のぬいぐるみも置かれていた



クラシカルな雰囲気のパスルーム

寺院で行なわれた華やかな挙式当日にもこのホテルから出発している。“ザ・ゴーリング”というホテルの名前は、日本では一部のホテル関係者しか知られていないが、ゴーリング家により100年以上にわたって経営されているロンドン屈指のラグジュアリーホテルである。

ゴーリングは1910年の創業以来、一族で同じ経営ポリシーを受け継いできたため、その変わらぬホスピタリティに共鳴する多くの英国上流階級の顧客が多い。ホテルエントランス脇に創業者であるゴーリング氏の銅像が、“O.R.Goring 1869-1946”と記された台座に立っている。2013年には英国女王から初のロイヤル・ワラント（Hospitality Service 分野）を授与されたホテルとして話題になった。107年の歴史と伝統を持つゴーリングは、エリザベス女王のお墨付きと共に「Top London Afternoon Tea Award」にも輝いた、気品あるアフタヌーンティーを享受できるホテルとして有名である。

ゴーリングの部屋数はスイートを含めて69室と少ないため、ラグジュアリー感とファミリー的要素の両方の雰囲気味わえる。客室は部屋ごとにデザインが異なるが、今回はその一つの「Suite Room」を紹介したい。暖炉が置かれた重厚なリビングとクラシカルなベッドヘッドを施した寝室が品格を現している。すべての部屋のベッド上には可愛い羊のマスコットが置かれ、ゴーリング流のユーモアが感じられ好感が持てる。メインダイニング「The Dining Room」はミシュランの星を獲得した上品な佇まいだ。アフタヌーンティーで人気を誇る「The Goring Bar & Lounge」はぜひ試して頂きたい。晴れた日にはガーデン側に用意されたテラス席もお勧めである。

ゴーリングはバッキンガム宮殿に近いという場所柄、海外の賓客や英国のロイヤルファミリーを多数迎えてきた由緒正しきホテルで、クラリッジスやコノートといったメイフェア地区の名門ホテルとは一味違う雰囲気だ。圧巻は、ここでのハイティーの時間で、まさにロンドンの一握りのハイソサエティー歓談の場であり、良き時代の大英帝国の残照が垣間見える光景でもある。